

学校教育目標	「ひと」とともに生きる生徒の育成
目指す学校像	「古くて新しい植竹中の創造」～わかる授業 明るい学級 夢を育む学校～

重点目標	1 生徒の能力を引き出し、内容の定着を図る「わかる・できる」授業の展開 2 組織的な生徒支援、教育相談体制の充実(誰一人、命を落とさせない) 3 地域に根ざし、信頼される学校づくり(コミュニティスクール)の推進 4 安全・安心で豊かな学校づくりの推進・整備 5 働き方改革を踏まえた、チーム「うえたけ」のバージョンアップ
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月5日		
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、全国平均よりポイントが国語(5.9)、数学(6.5)、上まっている。 ○中学校入学段階で、基礎学力の定着状況に大きな個人差がみられる。 (課題) ○学習において小学校との連携を進める上で、本年度も継続して、合同研修会の開催内容及び情報の共有化を行う必要がある。 ○大規模校のため、通信環境が悪く、学年全体や全校生徒が一齐にタブレットを使うことができない。また修繕にかかる日数が多い。	・情報端末の活用と学びの自律化における授業改善 ・ICT機器の利用方法を生かした学力の向上	①小・中合同研修会を8月に開催し、各教科でタブレット活用研修の実施。 ②「個別最適化」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業に向けて、ICT(タブレット)を効果的に活用した授業の実践	①教職員の研修後の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②教職員の実践後の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①研修後の肯定的な回答が78%と、ほぼ目標を達成することができた。 ②実践後の肯定的な回答が75%と、ほぼ目標に近い成果を上げることができた。	B	①タブレット活用について、効果的な活用ができる工夫について、改善・向上を図っていききたい。 ②「個別最適」と「協働的な学び」の一体化については、外部から指導者を招聘する等、研究をさらに深めていく。	・タブレットの扱いが不得意な生徒に対する対応について、次年度以降、対策を工夫することを望む。 ・教員の資質向上を図ることが、基礎学力の定着に繋がる最も重要な課題として、次年度以降も取り組んで欲しい。		
2	(現状) ○「So-la 一む」の活用の手順を見直し、より適切に対応できる体制を整えた。 ○定期的に生徒支援・教育相談に関する委員会(週1回)を行い、情報共有する中で課題を明確によりよい対応策を検討・実施していく。 (課題) ○「So-la 一む」を次へのステップアップをする場としての工夫、改善が必要である。	・一人ひとりの生徒に対しての細やかな教育支援に対応した行内体制の充実	①「So-la 一む」利用の生徒に対する学びの補償としてSAの配置、安全管理として地域のボランティア人材の活用をさらに進める。 ②生徒指導、教育相談委員会での個人データを蓄積できるファイルを作成し、3年間を通して支援ができる体制づくりを進める。	①SAの適切な配置と、地域ボランティア人材の活用ができたか。 ②個人データファイルの管理ができたか。	①SAの適切な配置については、随時見直しを図りながら行うことができた。また、地域ボランティアについても新たな人員の配置を行うことができた。 ②個人データファイルの管理については、事故無く処理することができた。	A	①次年度も、随時見直しを図りながら適切な人員配置を行う。 ②3年間を見通して支援ができる体制づくりについては、定着できるよう工夫・改善を行っていく。So-la 一むの活用についても、利用生徒の目的を明確にできる工夫を行っていく。		・So-la 一むの取組については、担任や学年の教員が該当生徒への声掛け等がよくできている。 ・ボランティアの方々と、学校との共有場面を増やし、より一層の充実を図ってほしい。	
3	(現状) ○地域の避難所運営訓練への生徒・教員の参加(ボランティア)について、本年度も実施予定。 ○地域のお祭りへの参加(剣道部・陸上部)を、本年度も参加予定 ○「わかたけスマイルフェスティバル」の実施 地域の方々や保護者の方を招待し、文化部の発表を行う。本年度は、吹奏楽部が小学校とコラボして演奏する計画を進めている。 (課題) ○部活動が盛んなため、なかなか地域行事に参加できない状況にある。 ○学校支援組織(PTA・後援会)明確にし、地域の協力も得られる体制づくりに移行していく必要がある。	・自校文化における魅力発信及び開かれた学校づくりの推進 ・PTA、後援会、地域との密接な関係づくりの構築	①コミュニティスクールとして、積極的に生徒の地域行事参加を募り「地域の一員」としての誇りを持たせる。 ②学校環境整備ボランティア(旧親父の会)を募り校内環境の整備を推進する。 ③PTAと後援会の組織、充実を図り、生徒の安全及び生徒の活躍の奨励、広報活動を強化し、地域に発信するとともに協力体制を強化する。	①地域行事参加生徒が、延べ100人以上となったか。 ②年間、3回以上開催。 ③PTA常任委員会、後援会役員会に参加し、計画や実施方法等を検討することができたか。	①地域行事への生徒の参加については、地域のお祭りや避難所運営訓練等に積極的に参加することができた。延べ人数の目標値については達成することはできなかった。(78人)	A	①次年度は、事前に日程等を確実に把握し、行事への参加ができる体制を整えていく。			・生徒が、地域の行事などに積極的に参加し、交流を図ることができている。 ・PTAと協力し、後援会や学校行事に取り組めたことで、交流を深めることができた。 ・昨年まで別の施設で行っていた地域の行事を、学校会場として提供してくれた事に、感謝したい。
4	(現状) ○学校評価アンケートについて、「避難訓練や授業等により、安全面について、意識が高まっていますか」の質問に対して、生徒の肯定的な回答が93%と高い数値が出ている。 ○教職員、生徒の事故防止のための取り組みが進められている。 (課題) ○特別教室棟(理科室・技術室・調理室)の老朽化が進み、改築が必要である。 ○老朽化が進んでいる特別教室の改築は喫緊の課題である。 ○教職員、生徒の安全に対する意識と技術をさらに高めていく必要がある。	・一人ひとりの生徒に対しての細やかな教育支援に対応した行内体制の充実 ・学校施設の改修計画の策定 ・安全、安心な学校づくりの推進	①避難訓練等を通じて、目的を明確にし、自助・共助の意識付けを進めている。 ②生徒指導、教育相談委員会での個人データを作成し、3年間を通して支援ができる体制づくりを進める。 ③学習室利用の生徒に対する学びの補償としてSAの配置、安全管理として地域のボランティア人材の活用をさらに進める。 ④学校施設整備課と連携を図り、リフレッシュ計画における計画策定に関する協議を進める。 ⑤「AEDを含む応急手当講習会」「交通安全教室」等の授業及び校内研修会を開催。「知識より意識」を合い言葉に、学校の安全度を高める取り組みを進める。	①学校評価生徒アンケート「安全について」の肯定的回答が90%以上 ②生徒指導、教育相談委員会での個人データを蓄積できるファイルを作成し、3年間を通して支援ができる体制づくりを進めることができたか。 ③地域ボランティアとの情報交換打ち合わせを学期に最低1回開催できたか。 ④改修までの計画策定ができたか。 ⑤応急手当講習会、安全教室等の校内研修を行い、教職員の意識を高めることができたか。	①「安全について」の肯定的回答は94%と、目標を達成することができた。 ②蓄積ファイルについては、計画的に進めることができた。 ③情報交換打ち合わせについては、年度当初実施することができた。	A	①次年度も、「自助・共助」の意識付けができる環境を整えていく。 ②安全な管理を確実にし、体制づくりを行っていく。 ③次年度も適切な配置を計画し、随時、見直しを図りながら行っていく。			
								①トイレの改修工事については、計画とおりに実施することができたが、他に老朽化が進み、早急に修繕が必要な箇所がある。 ②校内研修を計画とおりに実施し、意識の向上を図ることができた。		
5	(現状) ○教職員との面談を実施し、個々の強みを理解し、個別の研について支援やアドバイスを適宜行う。 ○本年度より「学校DX推進部」を校務分掌に設置し、ICT活用に関する研修会を進めている。 (課題) ○ICTの活用について教員間、教科間の差が大きい。 ○経験値の差から、部活動、校務分掌や学年分掌の力量に偏りがみられる。	・働き方改革を踏まえた居心地の良い、チーム「うえたけ」のバージョンアップ	①情報端末やアプリの効果的活用方法についての研修会を定期的に進める。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価の視点を理解し、キャリアnaviを活用し、教員個々の資質向上指標に取り組む。また、全国教員研修プラットフォームを活用し、資質向上を図る。 ③スポーツを科学する取り組みから、部活動の効果的な指導法の工夫・改善を図る。	①すべての教員が、自らの目標に向けての研修に取り組み、結果として90%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価のB評価の割合が90%以上となったか。 ③該当部活動の満足度が90%以上となったか。	①評価面談において、90%以上の教員から目標に向けての研修ができたこと、報告を受けた。 ②行動プロセス評価のB評価の割合について、90%以上の数値となった。 ③該当部活動の満足度が90%以上の数値となった。	A	①次年度も、研修会を計画的に行い、意識向上を図っていく。 ②教員個々の研修意識を高め、資質向上を図っていく。 ③部活動の効果的な指導法について、本年度の研究を活かし、工夫・改善を図っていく。	・教員の働き方改革は、次年度以降も継続し、健康な状態で働ける環境づくりを築いていくことを望む。		

学校運営協議会による評価
 実施日令和8年2月5日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等